



▲移住者交流会の様子

「日向地区の人たちは自分たちの力でこの地区を何とかしたいという気概を持っていて、とてもパワーフル。私はこのパワーに引き寄せ

ました」
 「夏の初めににぎわっていたまちが、季節が変わるころには都会に人が去り、まちの元気がなくなる。帰省するたびに寂しいと感じていました」
 国家公務員として外国での勤務を経て酒田にUターンした佐藤さん。地域おこしに興味を持っていたところ、地元酒田で地域おこし協力隊員を募集しているのを知り、昨年8月から同隊員として八幡地域の日向コミュニティセンターを拠点に活動しています。

新しい場所、人との出会い



Sato Miwa

佐藤 美和さん(升田)

地域おこし協力隊員

さかたの風

今月の人

つながるから始まること

「られてここにいるのでは、と思うことがありますが」と話す佐藤さん。

少子高齢化が進む同地区。佐藤さんは2月13日に行われた日向ささえあい除雪ボランティアへ参加しました。中学生も多く参加する同活動で、地区の方からは「来てくれてありがとう」「久しぶりに若い人の声を聞いてうれしかった」という言葉を掛けてもらったそう。人と人との触れ合いやつながりの大切さを改めて感じた佐藤さん。

また移住してからのつながりも大切と感じていた佐藤さんは、同日に自宅を開放して移住者交流会を行いました。寒鰯汁をみんなで作って食べ「心も体も温まり、楽しい時間を過ごせました」とうれしそうです。

佐藤さんにとってこの半年は手探り状態でしたが、たくさんの人たちとの出会いと交流があって、貴重な経験になったそうです。

「やりたいことが少し見えてきました。最初の1年は、失敗してもまた頑張るというチャレンジの年にします」と次の活動への意気込みを語ってくれました。

交流から生まれる新たな出会いが追い風になって、地域の活力につながってほしいですね。

旬の食材を使った料理を酒田市食生活改善推進員が紹介します

酒田の旬

23

桜餅

【材料】(6個分)

白玉粉…………… 大きじ1/2
 水…………… 1/2カップ
 小麦粉…………… 軽く1/2カップ(50%)
 砂糖…………… 大きじ1/2
 食紅…………… 少々
 塩…………… 少々
 サラダ油…………… 少々
 あんこ…………… 180g
 桜の葉(塩漬け)…………… 6枚



桜の花が待ち遠しい季節になりました。桜の葉の間からちらりと見えるピンク色。そんなかわいい桜餅で、春を先取りしましょう。

【作り方】

- 桜の葉は、塩少々(分量外)を入れた水に入れ、10分程度塩出しし、クッキングペーパーなどで水気を拭き取っておく。あんこは6等分に分けて俵型にしておく。
- 白玉粉は袋の状態手でよくもみ、砕いて器に入れ、水を少しだけ加えてとろとろに溶いてから、残りの水を加える。
- ②に小麦粉を振り入れ、だまがでかきないようによく混ぜ合わせる。砂糖を加えて混ぜ、水で溶いた食紅を少しずつ加える。
- フライパンにサラダ油を引き、ごく弱火にし、③を均等な厚さの小判型に広げる。色が透明になってきたら裏返し、さっと焼く。
- 完全に冷めてから、最初に焼いた面が外側になるようにあんを巻く。①の桜の葉でくるみ、仕上げる。

食生活改善推進員からの

ワンポイント

白玉粉は焼いたときに白く浮き出してしまうので、よくつぶしてから使用しましょう。

東北公益文科大学

キャンパスレポート

47

Koeki Kids Project(公益キッズプロジェクト)

筒井 友美(4年)

Koeki Kids Project (以下KKP)は、私たちが大学で学んでいる「公益」に関して、小学生を対象に授業実践を行う取り組みです。平成22年に活動を開始し、庄内地域にある小学校の4年～6年生を対象に、そのクラスに合った公益を考える授業を企画、実施してきました。今年度からは中学校でも授業を行っています。

私がKKPに参加したきっかけは、私自身が小学生の時に東北公益文科大学の学生による公益の授業を受けたことがあり、その時の楽しい思い出が忘れられなかったからです。昨年2月に、浜中小学校で「思いやり」をテーマにした公益の授業を行い、子どもたちの積極的な姿勢に刺激を受けました。

春から社会人になりますが、この活動で学んだことを忘れずに頑張ります。



▲学生の問いかけに積極的に手を挙げる小学生

園東北公益文科大学広報担当 ☎41-1117

市内企業の優れた技術力や製品、サービスを紹介します。



本社工場



(左)代表取締役 阿部 知行さん
(右)第二工場製造課長 皆川 和弘さん

同じ木は無い。それが面白さでもあり難しさでもあります。

木を育て、木を活かす

当社は、地元産杉を主体に建築土木資材を製造しています。庄内は県内でも良質杉材の産地です。製品は住宅をはじめ土木用材などさまざまな用途に使われています。木材の良さは丈夫さと温かさを兼ね備えていることです。そして木造文化として日本人の心に深く刻まれています。

原料となる木材は地元林に加えて社有林から調達し、地産材による製造に特化し、製品は県内、新潟県、宮城県を中心に出荷しています。*JAS認定工場としての品質や納期の安定性はお客さまより信頼を頂いてきました。また製造時に発生する端材、挽屑ひきくずは全て製紙用、畜産用として利用しています。

創業以来のオーダーメイド対応

原木は、5工程〜6工程で製品になります。住宅1軒で約100種前後の製品が必要となります。どんな注文にも即応し、省エネ型住宅に適応した製品を生産していることは当社の大きな強みです。

当社は昨年創業70周年を迎えました。これからも未来へ「人と森を繋ぐ創造企業」として一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。

※日本農林規格

【企業の概要】

沿革 昭和20年創業、昭和40年株式会社化し現商号となる。
商号 株式会社阿部製材所
資本金 2,000万円
住所 酒田市内条字横枕36 ☎64-2036
代表者 代表取締役 阿部 知行
従業員数 28人
事業内容 建築木材の製造
ホームページ <http://abeseizaisho.com/>



仕上げ工程



製材工程

丸太を柱状に加工しているところです。レールに乗せた原木を移動させ、刃物に押し当てて切断します。

乾燥によって変形・収縮が生じるため、乾燥後に再度加工し、注文の寸法に仕上げます。

酒田っ子 子育て講座

すくすく

90

イライラするのは母親失格？

東北公益文科大学教授
國眼眞理子 先生

お問い合わせ
子育て支援課 ども支援係
☎26,5735

明るく笑みをたたえ、どんなことにも動じない包容力のある人。理想の母親のイメージといえば、こんな姿でしょうか。でも子育て中の皆さん、そういったと思って、なかなかままならないですよ。

平成28年1月31日に放送されたNHKスペシャル「ママたちが非常事態?!」最新科学で迫る日本の子育て」の内容で、子育て中にイライラしたり、不安になったりするのは誰もが体験することです。子育てに向いていないからではない。オキシトシンというホルモンのせいだということです。このホルモンは母親が心地良いと感じると、わが子やパートナーへの愛情を促進するよう働くのですが、パートナーの非協力的な態度など子育てを妨げる刺激を受けると、イライラを助長するなど相反する働き

をするホルモンなのだそう。2年前、酒田市で就学前の子どもがいる家庭を対象に、子育てに関わる調査をした結果、第1子が3歳〜5歳、いわゆる「イヤイヤ期」のときのイライラ感が際立っていました。まだ子どもが自分の気持ちをコントロールする力が育っていないこの時期、嫌だと思えば物を投げ、大声で泣くなど、大人も「どうすればいいの」と泣きたくなることがあります。こんなとき母親を支えてくれるのは、パートナーや周りの人の何気ない「よくやっているよ」「大変だよ」というねぎらいや一緒に考えようとする姿勢です。大変なときほど「〇〇したら」と助言したくなりますが、何にもまして効果的なのは、母親の気持ちをよくみ取る「聴き手がいる」とことです。